

背景

繊維・ファッション産業は環境負荷が非常に大きく、国内外で法整備が進められ、衣服の環境負荷について調査が進んでいる

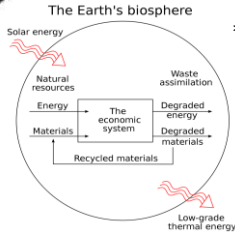
- UNEA-5: to End Plastic Pollution and forge an international legally binding agreement by 2024 (2 March, 2022)
- プラスチック資源循環促進法 (2022年4月1日施行予定)
- 経済産業省 ファッション未来研究会 (2021年)
- 経済産業省 繊維産業のサステナビリティに関する検討会 (2021年)
- 環境省 サステナブルファッション (2020年)

現状

様々な視点での研究は進められているが、繊維産業のサイクル全体で物質がゼロエミッションとなるかどうかを検討しているものは少ない

目的

『環境の観点から 繊維(衣)に関する有りうる未来を思索する』



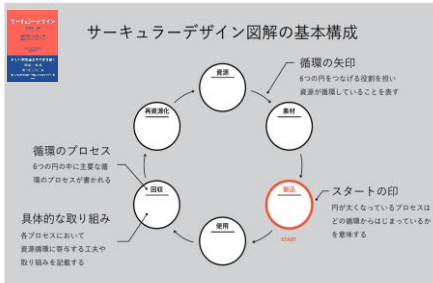
* 環境の観点:

入口側: (枯渇性) 資源の有限性、気候変動へ(から)の影響 地政学リスクなど
 出口側: 回収・リサイクル・廃棄など

* 収支の観点:

物質やエネルギー、水の収支を算定しながら、サーキュラーデザインのためのサービスデザイン、政策提言、材料プロセス設計

方法



環境のスタート地点、方向性をさす足印、資源循環における6つの主要なプロセス(資源・素材・製品・使用・回収・再生産化)、各プロセスにおける具体的な取り組みを円環状に示した。

① バウンダリーの設定

- 素材1: ポリエステル繊維 (合成繊維)
- 素材2: 羊毛 (天然繊維)
- 地域: 京都市?

② 6つの主要なプロセスに、具体的な取り組みの設定

③ 物質・エネルギー・水の収支を、LCAやCFP値で見える化、フローと総合値を検証

④ ②にフィードバックし、ゼロエミッションなサーキュラーデザインを提案

⑤ 各シーズ技術の環境影響もチェック。データベースが増えればAIによる予想?